

かづま
鹿妻の
れぎし
歴史



鹿妻穴堰の誕生



ひどい荒地だなあ。ここを田んぼに
すれば、家来や町の人々の食料も
すぐに手に入るし、藩も大だすかりだ。
そのためには用水路がほしいなあ。

つるぎなが
甚六は剣長根の岩山に
トンネルをほって、用水
の取り入れ口(穴口)に
しよう^{あなぐち}と決め、さっそ
く大工事にとりかかっ
たんだ。

完成した穴口のトンネルは、巾が約2メートル、長さが12メートルあり、900ヘクタールの田んぼに水を流すことができたんだ。

※ 1ha（ヘクタール）は学校の校庭と同じくらいです。

その後も、長い歴史の
あいだ、洪水にあったり、トンネルを広げる
工事をしたり、どんどん
用水路をのばしたり
したんだよ！

大正14年(1925年)には穴口に水門をつけ、コンクリートの
ていぼうもついて、分水もどんどん進んだよ。



穴口の下流側



穴口の上流側

昭和 28 年(1953 年)からは、
国や県の力で、用水路を直し
たり、広げたりする工事がお
こなわれ、新しい水田もたく
さん増えたんだ。



昭和46年(1971年)に今の頭首工(取入口)が完成し、平成10年(1998年)には改修工事がおこなわれ現在のようになった。

